



補足

前号の話は、ちょっと紙面が足りなくなっ
てしまったため、色々なところを削ったり、
結論だけとってつけたように添えてしまっ
たりしたので、どうも「もやもやサマーズ」状
態の人がいそうである。老婆心（老翁心）な
がら補足を。

*

まず、バスの券売機が壊れている場合はど
うするかというと、たいていバス停の側に、
ボール（コーヒーやアルコール類を立ち飲み
できる店、軽食も可）やタバッキ（日本の煙
草屋に相当する店で、簡単な日用品も売っ
ている）があって、そこで売っているの
である。ちなみに、私が子どもだった頃は、
日本でも同じような感じで、私の地元でも、
バス停の側にあった煙草屋さんが切符
売りを請け負っていたような記憶がある。
それらの店がなければ、乗ってから運
転手に交渉することになるが、タダで乗
せてくれる運転手もいれば、キッチリ料
金を要求する運転手もいて、なかなか
面白かった。

次にフニコラーレだが、登山電車などとい
うと大袈裟だが、例えばナポリは海岸沿
いの坂の町で、海岸沿いの平地と坂の上
を結ぶフニコラーレが4路線くらいある
のである。どの路線も4駅くらいの小
さな路線で、1～2両編成の斜めの
ケーブルカーが、町の人たちの生活の
足となっているのである。

*

券売機や自動改札が当たり前になる前は、
日本でも駅の窓口で行き先を言って切符
を買って、それを改札口の駅員さんに渡
してはさみを入れてもらったものだ。
定期券も駅員さんに見せて通り抜けた。
小学生の時から電車通

学をしていた私は、うっかり期限切れの定期
を持っていて、駅員さんに見つかって叱ら
れた経験もある。

券売機や自動改札になると、切符を買う際
のちょっとしたコミュニケーションや、不正
を見つけて叱られ、バツの悪い思いをする
といった経験がなくなってしまう。

日常の買い物の場面などでも同じだろう。
昔は店先で「合い挽き肉150グラム下さい」
などと頼んで、その場で竹の皮にお肉を包
んでもらったりしていたわけだが、今では
すでにパックになって並んでおり、誰と会
話することなく、それをレジに持って行く
だけである。もちろん、レジの店員さんと
会話することだって、ほとんどないに違
いない。一言も発することなく、「商行為」
という人間の一つの根本的なコミュニ
ケーションが出来てしまうというのも、
何かしら不思議な感じがする…とい
うか、本当にそれでイイのだろうか
という感じがしなくもない。

*

確かに赤の他人と会話するのはわずらわ
しい。余計な配慮することなく、スム
ーズに買い物ができたり、交通機関が
利用出来たりする方がずっとイイかも
しれない。しかし、昔はよかった…と
いったレベルの話ではなく、その便利
さの一方で、着実に失われているもの
があるに違いない。

ちょっとした会話、ちょっとした笑顔の
もたらす暖かみ。もちろん、一言が齟齬
を呼び、険悪な雰囲気になってしまう
場合もあるだろう。そんな当たり前の
「人間らしさ」を、イタリアの不便さ
の中で感じたのである。